

THE EXCHANGE LIFE IN FINLAND vol.1

HARUNO SEKI



HELSINKI CATHEDRAL

ヘルシンキ大聖堂



ヘルシンキのランドマーク。
ミントグリーンとクリーム色の
組み合わせが珍しい。
中はシンプルな造り。
大聖堂前のこの広場で、
冬はクリスマスマーケットが
開かれる。

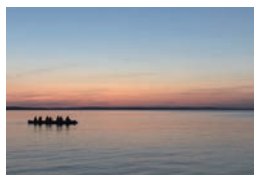
フィンランドのここがすごい！

- ・清潔すぎる（道にゴミがない、匂いがない）
- ・どこのトイレに入っても綺麗、無臭
- ・水道水が飲めて、日本より美味しい
- ・治安が素晴らしく良い
- ・自然が豊か、湖と森がたくさん
- ・学割がレストランやカフェ、バーにもある
- ・家賃、通信費が激安
- ・バスが深夜まで走っていていつでもくる
- ・忘れ物、失くしものが数回届いた
- ・英語がとにかく通じる

※あくまでも全て私感であり、実際のデータに基づくものではありません。

胸を張って言えることは、日本人にぴったりの国だということ：）
まずはその清潔さ。道にゴミはなく匂いも感じたことはありません。トイレはどこに入っても汚れや匂いがあったことはありません。夜に若者が集うパブでもトイレが綺麗だったのには驚きました。水道水は飲むことができ、日本よりも美味しいです。そして、治安の良さ。これに関しても、日本より優れていると言ってもいいと感じます。さらに、私は自然の豊かさに特に感銘を受けました。国内18万個もの湖があると言われており、家や学校の近所に必ずと言っていいほどとても大きな湖があり、現地の人々は散歩を楽しみます。森を探検したり、サウナのあと湖を泳いだりと、豊かな自然はいつでも身近な存在です。

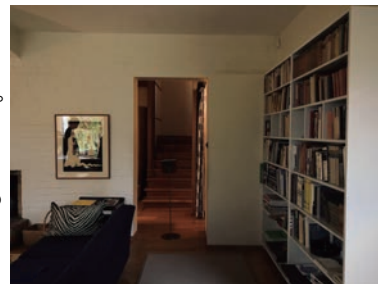
湖と夕焼け
タンペレで有名なサウナに面している。



なぜフィンランド？ 一留学を決めた理由

私はデザイン学類所属で、また高校まで美術を勉強していたことからアートやデザインの分野に強い関心がありました。大学1年の冬、宮城県美術館で行われていたフィンランドデザイン展を訪れた際、そのシンプルながらも洗練された魅力に惹かれ、北欧デザインに興味を持つようになったのが大きなきっかけです。マリメッコやムーミン、イッタラなど元々好きだったブランドのみならず、多様なデザイナーや家具のブランドを輩出しており、そこにはデザインの一貫性が見受けられると感じました。留学は大学2年まで意識したことはありませんでしたが、宮城大学の協定校がフィンランドにあり、デザイン学科もあると知ったとき、北欧デザイン本場で様々なものに触れ、学んでみたいと考え始め、2年の秋に協定校留学に応募することを決めました。

フィンランド出身の建築家/デザイナーアルヴァアアルト自邸。（ヘルシンキにて）デザインやアートに触れられる施設が多く、デザイン学類の学生や美術に興味がある人にお勧めの国。



世界で唯一のムーミン博物館がタンペレ市にある。博物館外にいるムーミンの銅像と。館内全て日本語解説があるのには驚かされた！



ここはちょっと...

- ・物価が高い（特に外食）
- ・和食に比べると淡泊な味つけ
→ 自炊が増えて飽きる
- ・スーパーの品ぞろえが日本より悪い
- ・秋～冬の日照時間が極端に少ない

⇒ 圧倒的に悪いところが少ない！：D

不満な点も勿論、少しだけありました。まずは食事に関する点。基本的に料理の味付けが、日本に比べ淡泊です。郷土料理や特産品も少なく、味に癖のあるものが多いです。（ex.みんなが顔をしかめる餡、血で作ったソーセージ、味のしないチーズ、硬いライ麦パン）さらにレストランやカフェはとも高く、ほぼ自炊しかしないので飽きてしまいます。自炊にしても、スーパーでは肉の種類が少なく、魚もサーモンやエビ以外滅多にない上に高いです。基本的に日本食が恋しくならないタイプですが、この10か月はどうしても食にストレスを感じていました。また物価の高さも挙げられます。特に外食やお酒が高く、夜に飲みに行こうものなら一晩で沢山消えてしまいます...しかし、これに関しては日本よりも金銭的に優しい面も沢山あったので、一概に全てがそうとは言えません。学割文化が根強く、ほとんどのカフェやバーが5～10%の割引を導入。またSIMなどネット通信料、家賃（光熱費水道込）交通費（これは特に仙台が高い...）も圧倒的に安いので、有難いと感じたことも多いです。学生に優しい素晴らしい国です。

渡航先：フィンランド・タンペレ

期間：19年8月～20年5月

留学先：タンペレ応用科学大学

コース：Media & Arts

留学時：価値創造デザイン学類

/ 3年生

実際、英語って伸びた？

元々教科としては得意な方で、特にリスニングを得意分野としていたので、なんとなくいけるかな？と謎の自信を持って特に準備をせずに渡航したら、大変なことになるしました。到着3日目に1人目のルームメイトが到着するもうまく意思の疎通がとれず...翌日8人という多すぎるメンバーで食事に行くも、数時間何も声を発せず...聞き取ることができても、全く話せず、他国から来た学生の英語力の凄さを実感し、強い孤独を感じました。しばらくこんな状態で、恥ずかしさで沢山の冷や汗はかきながらも、段々前より話せるようになっていました。最初はメッセージでやりとりするときも間違っていないかネットで調べたりしていましたが、全く不自由なくチャットできるようになったのが始まりでした。ルームメイト仲良くなり、どこに行くにも何をするのも一緒だったことが良かったと思います。他にも社交的なルームメイトのおかげで友達ができました。社交的な友達を1人作れば、友達の輪が広がると感じます！さらに、私の英語力が上がった大きな要因は、Netflixだと感じます。アメリカドラマを英字幕で観ているうちに日常会話のボキャブラリーが増えた気がします。最初は笑いどころが分からず？？となっていました。シーズン4くらいからはほぼ理解して笑えるようになっていました。内容に執着せず流しながら観られる、アメリカのコメディドラマは英語学習にはお勧めです。向上したものの、最初が酷かっただけでまだまだ完璧な状態ではないのでこれからも頑張っていきたいです。



ルームメイトと行ったエストニア旅行にて。様々な国から来た留学生と友達になり、首都ヘルシンキやイギリス、スウェーデンなど海外旅行にも一緒に行けた。過ごした時間は忘れられない！

留学、これは大変だった...

カルチャーショックは経験しました。主に2つ。まず文化の違い。様々な国から集まった学生と交流し、何度かストレスを感じる場面がありました。行きたいところをみんなが一斉に主張して折れず喧嘩になったり、約束していたイベントの開始時間に合わせて用意しなかったり（開始時間に行くけどダサいらしい）友達のことを待たせても「ありがとう」と言わなかったり、集団行動しても一緒に疲れたから帰る、と突然帰ったり...これは日本の「普通」に順応しているから感じるだけであって、何が良い・悪いとは言えないということにも気づきました。日本は気持ちは伝えないことが良いとされる場面が多く、他国では逆です。現に私が留学初期、日本人が「ごめん」と言うのと同じ頻度で（ありがとうとはほぼ同義で）Sorryと言っていたら、謝りすぎて変！と数人から言われてしまいました。（それをストレートに言われてイライラしたり(笑)）文化の違いを知られて面白い！と思って生活できたら楽だと思います。2つ目は、「人種」について。基本的に明らかかな差別を感じたことはありません。良い国です！しかし、色んな国から来た人と話していて傷ついたことが何度もありました。例えばアジアの他国から来た友達と講義を受けていて、教授から「君たちの顔はみんな一緒に見えるから判断が難しい」と言われた時には傷つきました。バーで突然見知らぬ白人男性が中国人の男性を連れてきた上で「君のボーイフレンドだ」等の発言をしてきたときは泣きそうになりました。スーパーで、見知らぬ人に「中国人ですか？ベトナム人ですか？」等と聞かれたり、コロナが流行ってからは、顔を見ただけでコロナ！と言われたこともあります。他にも沢山、アジア人という人種のラベルを貼るような行為をされることがあり、それが非常に不快だと気が付きました。しかし、私たちは日本で似たようなことを行ってしまうことがある、ということにも同時に気が付いたのです。英語を話している＝アメリカ人のようなステレオタイプが未だに蔓延っていることは事実です。金髪で目が青かったら外国人（＝日本人ではない）などとは一概には言えないのです。自分がされて不快だった経験から、私は今後絶対そのようなことはしないと誓うことができます。これは日本に留まっ

ていては考えることもなかったと思います。



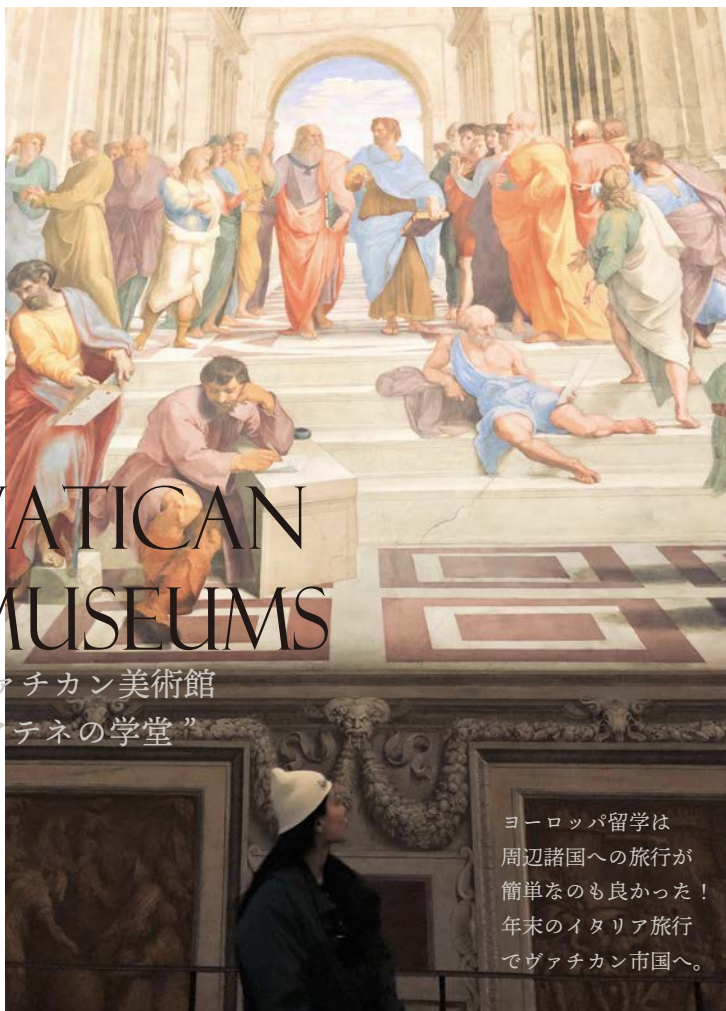
ヘルシンキ中央図書館
19年度、世界最高の図書館に選ばれている。フィンランドは、国民が最も図書館を利用していると言われている！



フィンランド伝統のドーナツ・ムンッキ。大好きで何個も食べた。世界で一番おいしいムンッキが食べられるというお店はタンペレにある！モチモチの食感が独特。

留学を終えて得たもの

上記の人種問題のみならず、留学に行ってから、あらゆる物事に直面したとき「なぜそうなのか？」「自分は間違っているのか？」等考え、自らの意見を持つクセがついたような気がします。これは、留学先で出会った様々な国から来た学生を見て学んだ姿勢でもあります。ほとんど私と変わらない歳なのに、自分の国の政治や問題点、フェミニズムやビーガン、LGBTなどの様々な視点や戦争、そして環境問題について良く知り、自分の考えをしっかり持っています。大人数で話しているとディベートのようになってしまうこともしばしばありました。そんなとき、私は黙ってしまうことが多かったのです。知識が足りなかったのもそうですが、友達とそういった話題を真剣に話し合う機会がこれまでになく、どう扱っていい話題なのかすらも分かりませんでした。ニュースを観るのが好きで、そこそこ知っている方と勝手に思っていたのですが、あまりにも無知であることを恥ずかしいと感じ、また友達を素直にかっこいいと思えました。主張するかどうか別としても、自ら興味を持って調べ、「知ることが大事だと感じる」ことができました。とにかく成長の多い10か月、最後はコロナウイルスの流行で出かけられず、2か月間の1人暮らしなど辛い日々を過ごしましたが、今では全てがよい経験だったと思っています。行って後悔したことは1つもなく、「帰りたくない」が口癖でした。今後も学生のうちに語学や色々なことを吸収し続けられたらと思っています。



VATICAN MUSEUMS

ヴァチカン美術館
”アテネの学堂”

ヨーロッパ留学は
周辺諸国への旅行が
簡単なのも良かった！
年末のイタリア旅行
でヴァチカン市国へ。